

Office7

(有) AGCサンスマイル

こんどう
近藤

きょうへい
恭平さん

平成18年度 日野中央高等特別支援学校（高等養護学校）卒業

業種

建物・独身寮の清掃、緑化等
※旭硝子（株）の特例子会社

所在地

横浜市鶴見区末広町1-1
（大阪、愛甲郡にも事業所あり）

従業員数

40名（知的障害者29名/
管理スタッフ11名）

※H20.4.1現在

(有) AGCサンスマイルは旭硝子株式会社の特例子会社で、2002年の1月に設立されました。主な業務は、親会社の関連施設の清掃などで、29名の知的障害者と11名のスタッフ社員が働いています。

近藤さん採用までの経緯

近藤さんはここで2年生の時に1回、3年生の時に3回の実習を行いました。当時から近藤さんと接している業務第一課長の小池勇治さんは、実習を始めたばかりの頃の近藤さんについて、「理解力はもともと高い子でした。でも器具を+使った清掃というのは足の動かし方が意外と難しく、近藤君も最初は体がなかなかついていきませんでした。正直言って彼にはこの仕事は向いていないかな？と思ったこともありましたが」と言います。

そんなある日、休憩時間に小池さんが職場の隅に目をやると、一人で黙々と足の動かし方を練習している近藤さんの姿が目に入ったそうです。それを見てはじめて小池さんは、「この子ならやっつけられる」と確信したそうです。

また近藤さんは実習のたびに、だれに言われたわけでもなく、「今回は〇〇をやりたい」、「今回は□□を覚えたい」といった自分なりのテーマを決めて来たそうです。「そんなことをする実習生は、後にも先にも近藤くんだけでした」と小池さんは笑います。

こうした前向きな姿勢や努力が実習を通して周りに理解され、近藤さんは2007年4月に正式採用となりました。



開発センター内を清掃する近藤さん

プロとして

小池さんは、近藤さんはもちろん、ここで働く社員全員を「障害者だと思って接してはいない」と言います。社員の中には、「私はこの仕事は好きではありません。でも、もらったお金で好きなコンサートに行けるので、この仕事を続けます」と、はっきり言う方もいるそうです。

しかし小池さんはこの考えを否定しません。そして言います。「仕事に対する意義や意欲は人それぞれです。大切なのはプロとしての自覚です。プロとして仕事をするからお金が貰え自己欲求を満たすことができる。だからこそ働くことの価値は重い。社員たちには、そのことをいつも忘れないでいてほしいと思っています」。

企業としてのAGCサンスマイル

AGCサンスマイルの業績について取締役社長の山下雅夫さんは、「当社が黒字になったことは一度もありません。親会社の支援がなければとてもやっていけません」と言います。そして機会あるごとに親会社に対して、「赤字だからと言って潰すわけにはいきませんよ!」と言い続けているそうです。

しかし本当は、採算を度外視して社会的責任を果たそうとしている親会社の真摯な姿勢を、山下さんも十分知っています。そして平成20年4月には、大阪と愛甲郡にAGCサンスマイルの新たな事業所もできたそうです。

* * * * *

今回の取材は近藤さんの母校の担任だった増田先生も同行し、記念撮影をしました。その日の夜、めったに連絡を寄こさない近藤さんから、先生の携帯にメールが届いたそうです。そこには取材に対する感謝の言葉の他に、「写真を写すとき先生が照れていたのが面白かったです」と書き添えられていたそうです。



元担任増田先生とツーショット

Office8 <http://www.apita-nagatsuta.com>

アピタ長津田店 (ユニー(株))

たなか じゅん
田中 純 さん

平成18年度 日野中央高等特別支援学校 (高等養護学校) 卒業

業種 ショッピングセンター
所在地 横浜市緑区長津田みなみ台4-7-1
従業員数 約350名
障害者雇用状況 1名

アピタ長津田店は駐車場台数1,500台を誇る郊外型の大規模スーパーマーケットです。田中さんはここで主に、ドライ食品の品だしや店舗での商品整理・接客の業務を行っています。

田中さん採用までの経緯

田中さん採用のきっかけは、二つ橋高等特別支援学校(当時:高等養護学校二つ橋分教室)からの職場実習依頼の電話でした。アピタは、グループ全体としてはすでに法定雇用率を達成してはいましたが、副店長の井高真木さんの判断で実習を受け入れることにしたそうです。井高さんはそのときのことを振り返って言います。「障害の有無は考えず、『人』を見たいと思い実習を受け入れました。障害があろうとなかろうと、働くのは『人』ですから」。

田中さんはこのお店で、平成18年7月以降時期を分けて計3回の実習を行い、その天性の明るさとまじめさが評価され、平成19年4月に正式採用となりました。



先輩スタッフと一緒に商品整理

田中さんは『パートナー社員』として採用され、時給や勤務条件は他のパートタイマーの職員と全く同じとなっています。

井高さんは言います。「アピタでは、障害の有無によって条件を変えることは考えてはいません」。

職場での田中さん

今回の取材では、写真撮影のためバックヤードや店内で働く田中さんに密着しましたが、すれ違うたびに他の従業員たちと声をかけ合ったりハイタッチしている様子を見ると、田中さんがとても明るく、周囲の方たちとも本当に仲がいいということがわかります。

田中さんは仕事について、「お客様に喜んでもらえることが一番うれしいし、力が湧いてきます」と言います。このように語る田中さんは、『周囲の人から与えられることの大切さ』、『周囲の人に与えることの大切さ』といったことをきちんと理解して、そして実践して働いているように思えます。

田中さんは目下の目標について、「お客様の質問に対して、店内のどんなことを聞かれても答えられるエキスパートになりたいです」と言います。そして将来の夢はアピタの社長になることだそうです。

田中さんの今後について、井高さんは言います。「今のまま、明るくまっすぐなままできて欲しいですね。そして無理なく安全に長く働いて欲しいです」。

* * * * *

高等特別支援学校では、進路指導担当教員が定期的に卒業生の職場を訪問する「職場定着支援」を行っています。田中さんの場合は、仕事も人間関係も非常に良好であり学校も安心しているのか、ほとんど支援に来ないそうです。

田中さんは言います。「でも、大森先生はよく休みの日に買い物に来てますよ」。大森先生というのは二つ橋高等特別支援学校の進路担当の教員です。

ちなみに大森先生は、アピタ長津田店のある緑区とはまったく逆方向の港南区に住んでいます。



広大なアピタ長津田店の外観



副店長の井高さんと

(福) 久遠園 第二福澤保育センターこいで きみか
小出 季美香さん

平成17年度 日野中央高等特別支援学校（高等養護学校）卒業

業種 保育所
所在地 横浜市港北区篠原町2823
従業員数 56名
障害者雇用状況 1名
（法人全体では3名。3園で知的障害者1名ずつ雇用）

第二福澤保育センターは、新横浜から徒歩十分程度の閑静な場所にある保育園です。小出さんはここで保育補助の仕事をしています。

小出さん採用までの経緯

社会福祉法人久遠園は、第二福澤保育センターをはじめ横浜市内で3カ所の保育所を運営していますが、かねてから各施設において障害のある生徒の「体験実習」の受け入れを積極的に進めてきたそうです。「体験実習」というのは就職を前提とする「試験実習」とは異なり、働く場を体験することのみを目的とした実習のことです。小出さんの場合も、第二福澤保育センターとの最初の出会いは、3年生前期の体験実習でした。

もともと子ども好きだった小出さんはここでの体験実習を非常に有意義に過ごし、卒業後も継続して働くことを強く希望するようになったそうです。

園としては、知的障害のある人を職員として採用した前例はなく、内部でかなりの検討を行ったそうですが、実習を通じて把握した小出さんの能力や努力・性格などを評価し、最終的に採用を決めたそうです。

小出さんのしごと

小出さんは、園児が使用するさまざまな物品・食べ物の準備や片づけ、部屋の清掃などといった雑務をこなす一方、保育補助の仕事も行っています。



園児にやさしく語りかける小出さん

現在小出さんは2歳児ほし組を担当しており、毎日園児たちと一緒に遊んだり散歩に行ったりしています。

小出さんについて、施設長の山口操さんは言います。「まじめで、与えられた仕事に対してはとても真剣に取り組んでくれます。ハキハキとものを言うタイプではありませんが、ゆったり・のんびりした性格や話し方が子どものテンポと合っていて、ごく自然にうち解けています」。

今回の取材時も、園児が自然に寄っていき、園児と同じ目線で接する小出さんの姿がとても印象的でした。

* * * * *

園長の山口さんは言います。「この園ではかなり重い障害児も受け入れて、健常児といっしょに保育をしています。そのような環境の中では、歩けなかった子が徐々に歩けるようになったり、しゃべれなかった子が徐々にしゃべれるようになったりすることが、しばしばおこります。やはり、大勢の人の中で時間を共有しながら過ごすことは、人の成長にとってとても大切なことなのではないかと思います」。

小出さんがこの園に就職してから3年目を迎えました。「園で働きはじめて一番うれしかったことは？」という質問に対して小出さんは、少し照れながら、「子どもが自分の名前を呼んでくれたことです」と言います。

今小出さんは園児から、「小出先生」と呼ばれています。



自然に園児が集まってくる